

事故事例と除雪機の気を付けるポイント(PDF 関連資料)

1. 除雪機の下敷きになった事故

事故発生年月 2021年1月(広島県、80歳代・男性、死亡)

【事故の内容】

使用中の除雪機の下敷きになり、死亡した。

【事故の原因】

使用者がデッドマンクラッチ機構を大きな洗濯バサミで固定して無効化したため、除雪機を後進中に転倒した際に、手を離しても除雪機の走行が停止せず、使用者に乗り上げて下敷きとなったものと考えられる。



除雪機に人がひかれる様子 (イメージ)

2. 除雪機に巻き込まれた事故

事故発生年月 2021年1月(新潟県、9歳・男児、死亡)

【事故の内容】

除雪機を使用中、こどもがオーガ(回転部)に巻き込まれ、死亡した。

【事故の原因】

除雪作業の途中、使用者が除雪機のエンジンを切らずにオーガが回転したままその場を離れたため、周囲で遊んでいたこどもがオーガに接触したものと考えられる。



除雪機の近くでこどもが遊んでいる様子 (イメージ)

3. 除雪機内部(ブロワ)に手を入れて負傷した事故

事故発生年月 2022年12月(秋田県、50歳代・女性、重傷)

【事故の内容】

除雪機のブロワ(投雪口)に詰まった雪を取り除く際に、左手指を負傷した。

【事故の原因】

使用者がエンジンを掛けたまま、付属の雪かき棒を使用せずに直接手で除去したため、回転部に触れ、事故に至ったものと考えられる。



ブロワに直接手を入れて負傷する様子(イメージ)

4. 一酸化炭素中毒になった事故

事故発生年月 2023年1月(北海道、80歳代・男性、死亡)

【事故の内容】

物置で除雪機のエンジンを掛けたままにして、一酸化炭素中毒で1名が死亡した。

【事故の原因】

使用者が十分に換気されていない屋内で除雪機を使用したため、排気ガスにより屋内の一酸化炭素濃度が上昇し、一酸化炭素中毒に至ったものと考えられる。



換気されていない屋内で除雪機のエンジンを掛けたままにして一酸化炭素中毒になった様子(イメージ)

除雪機の気を付けるポイント

○安全機能を無効化しない。

デッドマンクラッチ機構のクラッチレバーを固定するなどの安全機能の無効化をすると、使用者が転倒などした際に除雪機が停止せず、除雪機にひかれたり、巻き込まれたりするおそれがあります。



デッドマンクラッチ機構を洗濯バサミで無効化する様子

○エンジンを掛けたまま離れない。

除雪機のエンジンを掛けたままその場を離れると、こどもが近づいて触れるなどし、思わぬ事故につながるおそれがあります。一時的にその場を離れるときでも、必ずエンジンを切ってください。

○人が近くにいる時は使用しない。障害物に衝突しないよう注意する。

除雪作業をする際は、周囲に人がいないことを確認しましょう。特に背丈の低いこどもは死角に入りやすいので、十分気を付けてください。また、後進する際は、足下や後方の障害物を事前に確認し、転倒することがないように気を付けてください。

○雪詰まりを取り除く際はエンジンを切り、雪かき棒を使用する。

エンジンを掛けたまま雪を取り除く作業を行うと、手を負傷するおそれがあります。雪が詰まった場合は、エンジン及び回転部の停止を確認し、直接手で行わず、必ず備え付けの雪かき棒を使用して取り除いてください。

○屋内や換気の悪い場所ではエンジンを掛けたままにしない。

作動中の除雪機の排気には一酸化炭素が多く含まれています。一酸化炭素は無色・無臭で、発生に気が付きにくく、また非常に毒性の強い気体です。閉め切った屋内で除雪機のエンジンを掛けたままにすると、短時間で一酸化炭素の濃度が高くなり非常に危険です。除雪機は始動／停止も含め風通しの良い屋外で使用しましょう。エンジンを切った状態で、手で押して移動できない大型の除雪機等の場合は、窓などの開口部を開放して十分な換気が取れていることを確認してから、「屋内で始動し速やかに屋外に出る」、「屋内にしまったら速やかにエンジンを切る」などの対策をしてください。